備後教区報

第139号

CONTENTS

◇大遠忌ニュースフラッシュ
　各組お待ち受け法要より
◇視点
　中央教修を修了して
◇クローズアップ備後
　備後学僧逸伝④
◇坊守探訪　沼隈西組　善立寺
◇NEWS&活動情報
◇予報・インフォメーション
◇安穏灯火リレー

親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要

活況の各組お待ち受け法要

大遠忌 News flash

教区内各組で勤修されている「お待ち受け法要」がいよいよ活況を呈してきた。前号に続いて教区内各組のお待ち受け法要にスポットを当て各組より報告をいただいた。

三次組

みんなナモアミダブツの仲間だよ

三次組（小武正教組長）では8月28日（土）、三次ワイナリーを会場に「こどもお待ち受け法要」が90名を超える実行委員（住職、寺族、仏婦、仏壮、総代など）が集結し、晴天のもと開催された。

男声合唱団フロイデによる音楽法要。ご法話にかえて、大型紙芝居「親鸞さまと山伏弁円」の実演。焼きそばなどプロの味に舌鼓を打った食事ブース。つい夢中になって何度も挑戦した遊びブース。保護者はもちろん、実行委員までもがその取り組みを応援した仏の子相撲大会。心をこめて描いた作品展とその表彰式など・・・。160名以上の参加者を迎えた盛りだくさんの4時間でした。

この法要での何よりの収穫は、寺院・門信徒・教化団体・職域などの垣根を超えて一同に集い、子どもたちへの楽しい仏縁作りを願って参画できたことでした。

▲三次組こどもお待ち受け法要より

沼隈南組

聖人のご生涯をリレー法話で

沼隈南組（中山慧海組長）では10月2日（土）、光照寺（季平康住職）で執行された。

第1部の法要の部では、190余名の参拝者が本堂に参集された中、法中が七条袈裟を着用し縁儀により入堂。そして同日の午前、分灯された本願寺の常灯明が入堂し、本堂の蝋燭に点燭された後、『宗祖讃仰作法』が勤修された。

第2部の式典の部では、組長挨拶と本山からの「当法要に際しての挨拶」の披露、続いて「袈裟からのメッセージ」とし、門信徒の皆様にあまりご存じない袈裟についての話がありました。

後半は、組内布教使、北山祐章師、那須英信師、岡部正顕師の3人によるリレー法話が行われた。それぞれ、布袍・輪袈裟、色衣五条袈裟、黒衣五条袈裟と異なった衣体で登場し、親鸞聖人のご生涯を中心にリレー形式でお取り次ぎし、終了した。

▲沼隈南組お待ち受け法要より

鴨川組

ご門徒以外の方もご縁にあう

鴨川組（渡邉見真組長）では10月3日（日）、神辺文化会館大ホールにて勤修された。

法要では、『宗祖讃仰作法音楽法要』が、この度結成された鴨川組のご門徒と寺院坊守による合唱団「鴨川組クワイアーズ」約60名と一緒にお勤めされた。

続いて仏教讃歌、映画「おくり人」の原案である『納棺夫日記』を著された作家、青木新門さんに「後生の一大事、映画おくり人によせて」の題目で講演を頂いた。

あいにくの雨模様だったが、750

人を超える方々にお参り頂き、中でも150名近くの方がご門徒以外であり、新たに仏教に触れて頂ける機縁となった事が有り難い。

この法要にあたり、鴨川組クワイアーズはご門徒でソプラノ歌手である奥野純子さんに1年近くに渡り指導をして頂き、またその他多くのご門徒のお力添えで勤修できた事が、有り難い法要の「縁」であった。

▲鴨川組お待ち受けより

節談説教で法縁を深めた
比婆組

比婆組（豊浦順海組長）では10月3日（日）、西楽寺（定光大燈住職）にて開催された。内容は午前中が帰敬式で午後から「宗祖讃仰作法」音楽法要。法要には約200人が参詣し、数百年にわたって守り続けられた比婆組19ケ寺の法灯を継承し、地域社会との交流を深め、宗祖のご遺訓の実践に努め、僧侶・門信徒共に「比婆組の新たなる始まり」にしようと誓いを新たにした。

帰敬式では50人が受式。法要には讃嘆衆として「備後雅楽会」が出仕。雅楽を奏でながら稚児37人により町内を練り歩く予定であったが雨天のため中止。お待ち受け法要に先立っておつとめの中、本堂内を練り歩いた。法要は会所寺院の定光大燈住職を導師に14の寺院が出勤。記念法話では滋賀教区大津組浄宗寺の直林不退住職（節談説教研究会副会長）が高座を使って節談説教2席を行った。

ちなみに同組では来年の秋に今度はこれまで浄土真宗に縁の薄い人を対象に記念講演会を計画している。

▲比婆組お待ち受けより

備中里組

備中里組（津田雅行組長）では、秋季彼岸の最終日にあたる9月26日（日）、浄心寺（同住職）を会所に勤修された。

勤行は、「宗祖讃仰作法」音楽法要。この日のために組内法中は、ここ2カ年度の組僧侶研修（勤式）で同作法の研鑽を積んでおり、当日本番は、参拝いただいた約100人の門信徒と共に、声高らかにお勤めをすることができ、心から宗祖・親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ法要になったと思う。

第2部では、沼隈南組南泉坊住職・岡部正顕師に「節談説教」でお取り次ぎをいただいた。高座に上がられ、黒衣・五条での厳然としたご法話。節談が初縁の参拝者も多く、特に、「山伏・弁円」の話には、熱心に耳を傾けられ大いに感動された様子だった。

▲備中里組お待ち受けより

荘厳な中での感動の帰敬式
世羅組

世羅組（島津恵心組長）では10月6日（水）、照光寺（脇本寿真住職）にて帰敬式が開催された。

帰敬式は午前、午後と2回行われ270名が受式された。高齢や、病気、車椅子などで京都での受式が難しい方は、今回のご縁で受式できたことを大変喜ばれた。

帰敬式後は法要と記念法話（山口教区専福寺住職福田康正講師）があり、受式者以外の方も、ご縁に会われ総勢500名近い方が宗祖のお徳を讃仰された。特に午後の法要では45名のコーラス隊と共に、音楽法要が勤修された。音楽法要は3部合唱に編曲され、組内の法泉坊、西照寺、正満寺、光永寺のコーラス部が今回の法要のために練習を重ね、その成果を発揮した。後日感動とお礼の言葉が参加者から届いた

今回は帰敬式を主とした行事であり、お待ち受け法要は平成23年4月3日（日）に照明寺（菅治隆住職）にて、お稚児さんを募集し、子どもや若い人が参加できる法要を目指し計画されている。

▲世羅組お待ち受けより

▲帰敬式

視点

中央教修を修了して

教区連研履修者研修会が3月13日、本願寺備後教堂で行われた。現在、教区登録の門徒推進員は59名。推進員の高齢化が進む中で、組連研履修者の中から本山の「門徒推進員中央教修」（以下「中央教修」）を受講し新たな門徒推進員も誕生している。研修会では昨年、中央教修を受けた御調西組の西谷よし江さんが体験発表を行った。以下、中央教修を受けた人がどのような感想をもっているのか、教区内の人々にも理解を深めてもらうために発表内容をまとめてみた。（文責・教区基推門信徒部会）

本音で語り合える実感

組連研の最終日、組長さんから「連研の『しゅうりょう』とは終わりの『終了』ではなく、修めるの『修了』で、ここからが始まりのきっかけになるように」と聞かされ、参加者の方とも顔なじみになり、これで皆さんと縁が切れるのも寂しいし、波にのってみようと思い参加を決意しました。年齢的に余裕がないことも手伝いましたが……。

本山で行われる「門徒推進員中央教修」は3泊4日の日程で行われます。ご本山に到着すると大勢のご講師の先生方が温かく迎えてくださり、緊張が和らぎました。2、3日目ともなると、親しく話す雰囲気が自然なかたちで出来あがり、寝食をともにすることは本音で語りあえることを実感しました。

初詣、祈祷をやめた

「法座」のテーマは「出会い、神、差別、浄土」でした。「神」については、組連研でも取り上げられましたが、私はこれからこういう思いで、というはっきりとした考えがまとまらないままでしたので、何故、「神」がテーマになるのか、という思いも含めて、少しでも納得できればと思っていました。「神」については様々な意見がでました。皆さんもなかなか「神」を切り離すことが難しいようでした。講師の先生の「問い続けていくことが大切なんですよ」との言葉に勇気づけられました。

「こんなにも涙、涙の感動があるとは」

帰宅後、正月が近い時期でしたので、「初詣でに行ったらいけないんだ」と思っていたこれまでの思いから「行かなくてもいいんだ」と思えるようになっていました。そして、家族にも私なりに話すことができ、何十年も恒例だった「家内安全」の祈祷も取りやめ、今年は初詣も行きませんでした。これまで、お寺の除夜会に参って鐘をつき、その足でお宮に参っていたことが、神さまにお願いしなくてもいい、という思いでなんだか、ほっとする不思議な気持ちでした。これも家族に話すことによって互いに納得できたことによるものでしょうか。

新潟から参加された方から、お孫さんの百日参りはお寺に参ると聞きました。お嫁さんの両親も最初は驚かれたそうです。でもお寺に参ると「温かく包まれているようで、落ち着いて良いですね」と喜ばれたそうです。これも意識改革ですね。一つの学びでした。

悲痛な叫びに目覚め

そして、差別についての法座では同和問題について話し合いました。ある方の発言の中で、いままで差別を受けてきた思いを切々と語って下さいました。そして、「いつも坊守さんに話を聞いてもらって支えてもらった」と話されました。「いつまで、差別が法座のテーマにとりあげられなければいけないのでしょうか」としぼり出すように言われました。とても勇気のいることだと思いました。と同時に私は差別をしていないつもりでしたけど今まで直接、関わりがなかったから気づかなかっただけで無関心な自分に気づかされ、なんとも情けない思いでした。悲痛な叫びを目の当たりにしてとても申し訳ない思いがいっぱいになって思わず「ごめんなさい」と涙ながらに謝っていました。すぐ横に座っておられたこの方との出会いがあったことを決して無駄にしてはいけないと強く思いました。

そして、歴史を正しく理解して正しい知識を持つこと、苦しみを共感し、自分の立場におきかえてみること、自分を見つめ直すこと、などによって知らない自分に出会えることを改めて深く胸に刻み込みました。

これからが大事だ

中央教修は感動の4日間でした。帰りの新幹線の中で、参加した3人の方と「中央教修だからこそ話せることができるという思いに共感できて、しみじみ良い時間だったと思う」「なごり惜しい」「こんなにも涙、涙の感動があるとは思わなかった」「喜び合えたのは阿弥陀さまが招いて下さったんだよね」「一度しか行けないのが残念。また、行きたい」「仲間が増えるといいね」と語り合ったことであります。連研の声をかけて下さった組長さんや大勢の方のお陰でとてもよい〝電車〟に乗せて貰いました。そして、これからが大事だと話し合ったことです。

本山の御影堂の前の大きな銀杏の木が落葉して白州は黄色の絨毯でした。記念にと係の方に尋ねたら「いいですよ」と言われましたので、いただいて帰りしおりにしました。銀杏はどこでもありますが、これはもう特別で大切な印になりました。ご縁をいただいて本当にありがとうございました。

▲中央教習パンフレットより

▲教区連研履修者研修会より

備後学僧逸伝④

たかくすじゅんじろう
高楠順次郎
（1866～1945）

Close-Up-Bingo

◆クローズアップ ビンゴ

号　雪頂、篝村、八葉峰
法名　宏学院釋順成

明治中期から昭和にかけて我が国の仏教界の大御所的存在。東西を兼ねた学、古今を貫く識で「高楠三蔵」と呼ばれる程の功績を残した。そして名誉や利害ではなく常に高い理想をもって国家を憂い民衆・文化の進展に尽した実践者である。真宗学僧ではないが、備後ゆかりの仏教学者としてクローズアップしたい。（文責　教区報専門委）

高楠順次郎の生涯

15歳で小学校教師に就任

慶応2年5月17日出生。澤井洵、幼名を梅太郎、御調郡八幡町篝の澤井観三の長男として生まれた。五歳の頃、祖父清斎より『四書』『五経』の素読を習い、10歳で詩経、『唐詩選』等を朗唱していたという。明治12年、14歳で三原の桜南舎に入り漢籍を修める。後の弁護士界で名をなした山科礼蔵とは同窓であった。15歳で宮内小学校教師に就任し、同じく隣村の大田小学校教員であった花井卓蔵と共に「竜山会」という会を結成して政治を研究した。

17歳春には丸河南小学校に転じ、河内村にて「起風館」を興して国学の研究をするとともに、丸河南の金剛寺を会場として仏教会を興している。

明治18年、新設された西本願寺の普通教校（のちの文学寮）に入学。在学中には「反省会」を結成して禁酒禁煙を説き徳行をすすめ、「反省会雑誌」（後の『中央公論』）を刊行した。

この運動は次第に大教校の生徒も参加し、学内の風紀粛清から社会啓蒙運動に発展。最盛期には全国に会員3万人を数え当時同志社にあった徳富蘇峰の『国民の友』（日本初の総合雑誌）に対抗する形にまで広がった。

明治20年、神戸の高楠孫三郎の娘霜子と結婚して高楠順次郎と改める。

同23年からイギリス、フランス、

語句説明

①澤井家…備中高松城の水攻めで城主清水宗治に殉じた羽倉城主末近四郎三郎信賀の遺体を菩提寺真浄庵（専福寺の前身）に搬送したと伝えられる旧家。

②桜南舎…三原藩校の明善堂や三原小学校校長を務めた長谷川恭平の私塾。桜南は彼の号。青年の教育に尽力し桜南舎から多くの人材を排出。後に松永で浚明館を創立した。

③反省会…反省会の名称は赤松連城が名づけたとされる。当時の「反省」は新鮮な言葉で清廉、自己回復の如き意味合いであった。

④高楠家…楠正成の後裔といわれる家で、元々三重県の出身で真宗高田派の門徒であった。神戸に出てからは神戸別院（善福寺）門徒。

⑤Mミュラー…印度学、東洋学、比較言語学の権威で、サンスクリット文献学者。彼の梵語、仏教学資料の約2万冊以上は東京大学に寄贈され「マックス・ミュラー文庫」と重宝されたが関東大震災により焼失した。

⑥東京帝国大学…現在の東京大学。大正時代までは学科ごと最優秀者には天皇から恩賜の銀時計が下賜された。東大の仏教青年会は高楠の支援もあり大正8年に発足した。

⑦渡辺海旭…浄土宗の僧。大正大学、

ドイツに留学して、特にオックス・フォード大学でマックスミュラー教授に師事してインド学、梵文学を学ぶ。ドイツでドクトル・フィロソフィエ、イギリスに戻りマスター・オブ・アーツ、英国王立学士院会員となり、欧州各国の碩学と交わって『観無量寿経』や義浄三蔵の『南海寄帰伝』を英訳した。

同30年、欧州から帰国。東京帝国大学講師に迎えられ、梵語学を講義。現職のままで伊藤博文内閣の末松謙澄大臣の秘書官を務め、日露戦争時にはロンドンに渡り日英同盟に動揺がないように外交を手伝った。

同32年、34歳の若さで帝国大学教授に就任し、翌年文学博士。

同38年、英オックス・フォード大学よりドクトル・オブ・レターズ。同45年、帝国学士院会員。昭和二年、東京帝国大学名誉教授を受く。帝大の教壇以外にも武蔵野女子学院の創立、帝大仏教青年会館の建築など多くの仏教青年会や仏教女性会を宰して活動をたすけ、自邸を開放して幼稚園、ルンビニ合唱団、暁紅寮、富士楽山荘の設立など業績は多岐にわたる。東南アジア、インド、ギリシャに出で、アメリカやハワイの大学で講義し東西思想交流、仏教研究に努めた。

武蔵野女子学院の学院長だけでなく、東京外国語学校、中央商業学校、東洋大学、千代田女子専門学校の学長を務めた。漢訳本及び梵本を英・和訳し、幾百の研究を発表し、畢生の大事業として『ウパニシャッド全書』。渡辺海旭らと『大正新修脩大蔵経』百巻の刊行。『国訳南伝大蔵経』七十巻刊行、昭和16年に65巻を完結等々成し遂げた。同19年、その業績に対して国から文化勲章が贈られている。

同20年6月28日、富士山麓の楽山荘にて示寂。79歳。辞世は次のように認めたという。

不二山を横にながめて世の名残り
雲北水南足跡将遍　説嘿背機喜怒失度
識浪情波既八十年　国思鴻大恥無所報
八葉峰中光顔巍巍　千光輪底白道坦坦

備後の僧侶との関わり

備後門徒の生まれ

高楠の生家・澤井家は山間地ではあるが安芸備後の境に近く、昔は三次や府中へも通じる道すがらにあり文化的な情報は比較的入りやすかった。

そして、三原の専福寺を菩提寺とする仏教を大変尊く思う家に生まれたので、本山創立で碩学の指導を受けられる普通教校の誘いがあったときは、家族全員、門徒の誉れと激励して京都へ送り出したと伝えられている。

▶澤井家の法事にて。後列左端から西王寺住職、専福寺住職、高楠順次郎

東洋大学教授を歴任。カルピスの名付け親でもある。

⑧大蔵経（一切経）…経・律・論、及び注釈書などまとめられた叢書。この作業は中国では皇帝名で行われることが多い。編入される書物の基準が厳格で基準外のものは蔵外と称された。大正新脩大蔵経は、より広範囲に中国・日本撰述の典籍も含めている。

⑨専福寺…御調西組龍山俊暁住職

⑩金剛寺…御調東組金岡親量住職

⑪明浄寺…芦田組立神義昭住職

⑫覚善寺…三次組常光和信住職。得然は広島で仏教タイムス創刊した浩然の父。高楠と共著で本を出したり等々活動した。

⑬神智学会…当時は珍しい白人の仏教徒であり、仏旗を考案したオルコットが会長を務めた。

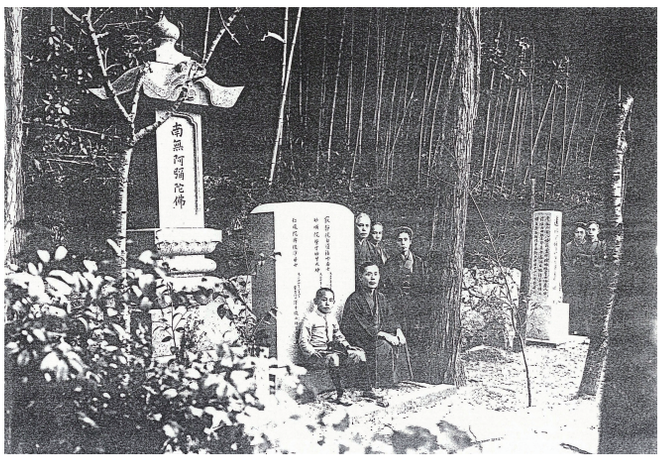
⑭南条文雄…大谷派の僧侶で仏教学者。英国で梵語を研究、日本での梵語原典による経典研究の道を開く。大谷大学学長を務めた。

⑮宇井伯寿…印度哲学研究の分野において世界的権威。東京帝国大学教授、駒沢大学学長を歴任した。文化勲章を受章。

⑯震災教護院…九条武子は築地本願寺で大震災の介護手当にあたった。彼女や大谷尊由、光明の協力もあり学院設立の機運が動いた。

余談だが、沢井家は高楠も学んだ自家所蔵の書籍約四千冊を一般に閲覧公開し（高楠文庫）、更に弟の沢井常四朗は蔵書一切を寄付。書籍を拡充し、現在の三原市立図書館の基礎を築かれた事で郷土では有名である。

若いうちから仏教的な素養が高く、聴聞にも来ていたと伝わる金剛寺では仏教会をおこし、府中の明浄寺を訪ねて「神官某が法然・親鸞の輩は神国日本にとって獅子身中の虫であるとあざけり、聖徳太子を罵ったので捨ておくわけにはいかないが、これを論破する力がないから、その蒙を啓くために来て講演してほしい」と足利義山の息子であり自身も令名を轟かせていた学僧日野義淵に自らの真意を訴えて反騎仏教講演会開催を頼んだという。



▶澤井家墓前で

京都の普通教校にて

そのような経緯もあり、義淵は高楠の才能を高く評価し、西本願寺創立の普通教校に入学させることを勧めて、その入学に高い英語力が必要なために福山から英語に堪能な者を明浄寺に呼び寄せて家族と共に彼に英語を習わせたという。義淵がこの新設校の副監事に就任し、また顕道学校（行信教校の分校）校長が是山恵覚、学校の幹事が福間浄観など郷里に近い学僧がいた事も入学の動機に影響があったようだ。

かくして明治17年、丸河南小学校の教員を辞し、翌年4月に開設が予定されていた普通教校に入学した。

在学中に禁酒進徳を掲げて仏教徒の品行の改良、法運の挽回を目指す運動「反省会」を結成していくが、その発起人の名前は三次の覚善寺・常光得然と小林洵（高楠の京都時代の名前）の両名であったことも特筆したい。

他にも日野義淵らと「欧米仏教通信社」を立てて仏教事情を紹介したり、海外宣教会を設置し、英文仏教雑誌の「アジアの宝珠」などを発行した。

結婚と欧州留学

この頃、神戸の熱心な門徒である高楠孫三郎は一人娘が英和女学校（今の神戸女学校）卒業でキリスト教に興味を示し悩みの種となっていた。そこで本山で面識を得ていた日野義淵等の要人に相談し、娘を指導するに足る婿を探す中で最適格者として候補にあがり是非にと請われたらしい。

澤井家長男でもあり交渉は難航したが教校の教師も説得し、ついに高楠家に婿入りすることが決まった。

高楠孫三郎は沢井家の落胆に少しでも報いるために欧州留学費用を負担する約束をした。米国の神智学会に仏教伝道師派遣を乞う縁で南条文雄と親交も始まっていた事もあり、南条の恩師であるマックスミュラー教授への紹介状をもって留学したのである。

高楠の人柄と功績

仏教の普及に力を尽くす

高楠は帝国大学で梵語学の初代担任教授や印度哲学を講義。門生には宇井伯寿など傑出した人材を多く育てて、この方面の学問が大きく発展する基礎を築いた。彼の功績に『大正新修脩大蔵経』刊行といった大偉業があるが、刊行を思い立った動機は大学の講義で研究用書籍が手に入らず学生が困りきっていたことが遠因らしい。高楠は全国に講演へ多数出かけたが、大蔵経校訂の仕事をする学生にアルバイトの費用を工面するためであったという。

私邸は校訂の仕事場に提供し、大学の給料や講演料までをつぎ込み、大蔵経編集は大網だけ握り自分は常に金策に奔走したようだ。その事業中は全く禁酒禁煙を実行したという事からも真剣さと人柄が窺われる。このように、高楠は優れた学者であったが自分自身の研究業績を積むことばかりを考えるような学者ではなく、同輩・後

輩や広く一般の仏教を学びたい人々のことを思い「彼らのために何ができるか」を念頭において仏教思想の普及に全生涯をかけた実践者でもあった。

国際的評価に貢献

日本文化は一般に中国から伝来して育まれただけではなく印度から直接受け取った事を紹介し、今の印度では失われた昔の梵字の形や経が日本にそのまま伝わり、あるいは中国で述作された倶舎・唯識の論釈が殆ど失われているにも関わらず日本には多数残っているなど大蔵経編纂の経験で分かった事例をあげて、東洋文化史における仏教と日本の役割を広く再発見する。

欧州学界においては得意とする漢訳経典の知識を欧州の学者に紹介し、その重要性を欧州の学問でも難所とされる「阿毘達磨」を欧州の学者が理解に難しく手に負えないでいたところ高楠が漢訳文献を参考にして英語で解説し、この分野で日本人の研究がいかに重要であるかを痛感させたという。

仏教による教育理念

大正13年、築地本願寺内の震災救護院跡を譲り受けて、武蔵野女子学院（現在の武蔵野大学）を設立する。

当時、日本の教育制度は初めにフランス式の学制、次にアメリカ式の教育令そしてドイツ式を取り入れた学校令と展開してきた。しかし高楠はドイツ型一律教育へ痛烈な批判を加え、イギリス式の教育を尊重すべきだと説いた。

イギリスは個性を尊重した人格教育として徹底し、営業学校は一つもない。

人格教育とは最後の断末魔まで自分で考え行動できる主体性の確立した人間を養成するもので、効率や知識のみに偏重して人格の修養や完成を目指すことを怠った教育に懸念を示した。

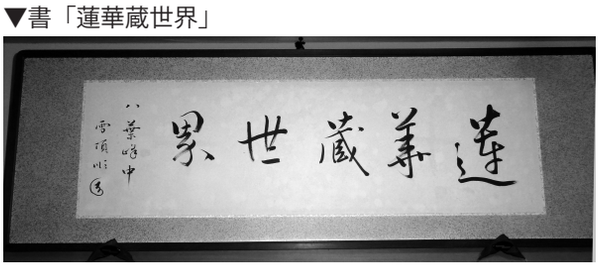
また女子高等教育設立の背景には、当時の宮中から一般までの上流女性がいずれもキリスト教の洗礼を受けている教育の現状と、仏教が廃されていることに対して「我国には全然祈祷なく迷信の根拠を見出さない仏教がある。これは親鸞聖人の宗派である」と祈りによって幸福を得ようとする不合理性と親鸞の非祈祷主義を評価し「仏教は希望に生きる宗教ではない。全く覚悟に生きる宗教である」と仏教精神による人間回復と知情意の人格向上の教育を力説した。その信念と教育に捧げた情熱の人・高楠順次郎の理念は武蔵野女子学院や門弟に受け継がれ、今日もなお多くの人に影響を与えている。

高楠順次郎の生家には分骨もされ、昭和35年には当時の故大谷光照門主の染筆による題字と門生の宇井伯寿の文が刻まれた顕彰碑が建てられている。

▲旧澤井家　▼現在の澤井家

▼高楠順次郎顕彰碑（三原市八幡町篝）

▼書「蓮華蔵世界」



▶高楠筆の碑文（芦田組明淨寺境内）

坊守探訪 VOL.29

沼隈西組　善立寺

龍谷（たつたに）　敬恵（よしえ）　坊守

今回お訪ねしたのは、沼隈西組・善立寺の龍谷敬恵坊守さんです。厳しい残暑もほんの少し和らいだ福山から国道2号線を通って松永方面へ、県道47号線から一本山側へ入った住宅地の中にお寺がありました。（聞き手＝立神多恵香委員、長裕美委員、写真＝山下瑞円委員）

今、自分に出来ることを一生懸命にこなしていく

失敗したことから学ぶ

Q　さて始めに坊守さんはどちらから来られたか教えてください。

A　私は尾道からここへ来ました。わたしの兄嫁が住職の従兄弟に当たる人で、たまたま「会ってみては」と話しをもらったのがご縁でした。

Q　ではお寺のこともある程度は知っておられたのですか。

A　全く何も知りませんでした。かえって、知らなかったから来れたというところもあるかもしれませんね。

Q　そうですか。では何もかもがはじめてだったのですね。

A　そうなんです。来たときは前住職と前々坊守がおられたのですが、母は怪我をして体調が悪くどちらかというと祖母のほうがしっかりしていたので祖母からいろいろ教わることが多かったですね。

Q　ではお嫁に来た途端、即戦力だったわけですか。

A　そうですね。でも最初は何もわかりませんし、前住職が何でも出来る人で、亡くなるまではとても助かりました。私はどちらかというとのんびりしているので、婦人会の方からも「坊守さんはポーっとしている」とよくお叱りを受けました。

Q　それは大変でしたね。

A　でもそう言いながら色々教えてもらいました。叱られて落ち込んで、そこで止まっていたのでは何も進まないじゃないですか。注意されても一度ならいいけど同じ事を二度くりかえしてはダメでしょう。だから聞き流すところは聞き流して、失敗した事は皆さんがしていることを見たり、親戚の叔母達に教えてもらったりしながら「あー、そうすればいいのか」と出来ることを段々に増やしていった感じです。

言葉を考えて

Q　同じ失敗を繰り返さないというのはなかなか難しいですよね。他になにか大変だった事はあ

りますか。

Ａ　やはり人間関係がむつかしいですね。時々法務にも出かけるんですが、お参りさせてもらった時や、婦人会の時に色んな相談を受けたり話しを聞いたり、どう受け答えをすればいいか考えますね。それと、会話の中で言っていい事と悪いことってありますよね、例えば住職の呼び方ひとつでも、家の中では名前で呼んでも門徒さんとの会話では住職と言ったり。そういう事が初めは全然分からなかったので失敗もしました。

蓮如上人の御正当法要

Ｑ　確かにそうですね。私も気付きませんでした。参考にさせていただきます。では次に、お寺の行事について教えて下さい。

Ａ　うちのお寺の独特な行事としては、毎年4月29日に行う蓮如上人の御正当法要が勤まることですかね。

Ｑ　珍しいですね。

Ａ　善立寺は以前、他の場所にありました。二回程火災にあってそのたびに地所を転々としているので、今の地に来たのは250年位前ということです。特に元亀２年（１５７１年）に本堂と庫裏を全焼する火災があり、古い物が全て焼けて詳しいことはわかりませんが、言い伝えによると、ここは元々天台宗のお寺でした。500年位前に蓮如上人が尾道の浄土寺を訪れられた時に高須の三井家へお立ち寄りになられたそうです。その時三井家の檀那寺であった当寺へもお越しになりその時の住職が蓮如上人の御教化をうけて天台宗から真宗へ転派したのが善立寺の始まりだと聞いています。その時に蓮如上人から直筆の御名号をいただいて、それがうちの寺宝になっています。

▲蓮如上人御名号

Ｑ　その火災で御名号はどうなったのですか。

Ａ　これは逸話のような話しですが、火災で全て焼けた境内の庭の木に御名号だけが引っかかって焼け残り、いつ頃からか年に一度蓮如上人のご命日に上人の好物だった草団子をお供えして法要を勤めるようになったそうです。

趣味はビーズアクセサリー

Ｑ　長い歴史のある法座なんですね。大切に伝えていきたいですね。では次に何か坊守さんの趣味があれば教えて下さい。

Ａ　以前はろうけつ染めや、トールペイントをしていましたが、今はこんなビーズのアクセサリーを作っています。

▲手作りビーズアクセサリー

Ｑ　これですか、素敵ですね。お店で売っている物みたい。何かキットがあるんですか。

Ａ　尾道の教室に通っているのでそこで求めたりしています。先生の作品は百貨店に出したりする事もあるみたいです。

Ｑ　ビーズ作りを通して何か教化に繋がることは考えておられますか。

Ａ　いいえ、今は特に考えていません。ビーズってなかなか材料を集めるのが大変なんですよ。それに一度に沢山の人に教えるのは難しいと思います。

Ｑ　そうなんですか。確かに手先が器用で老眼鏡の必要が無い人じゃないと難しそうですね。

Ａ　そうでもないですよ。流行

のリボン編みの物は難しいけど案外簡単にできる物もあるんですけどね。

Q　こんな素敵な作品ができるのなら作ってみたいですね。また機会がありましたら是非教えてください。では最後にこれからの抱負を教えて下さい。

A　とくに今抱負というものはありません。仏教婦人会もだんだん高齢化してきていますし、何とかしなければいけないとは思いますが、なかなかこれという打開策がみつかりません。今は自分に出来ることを一生懸命こなして行くことで精一杯ですね。そこから先のことは次の代に任せます。

Q　そうですね。課題は沢山ありますが、次の代にしっかりバトンタッチするまで一生懸命頑張っていくしかありませんね。今日はありがとうございました。素敵なアクセサリーも楽しませていただきました。

取材を終えて

何も知らない未知の世界に飛び込んできて、いろいろご苦労はあったと思いますが、「ポーッとしているから丁度いいんです」と肩肘張らずに笑い飛ばしてお話下さる坊守さんの姿を拝見していると、甲斐和里子女史の「岩もあり木の根もあれどさらさらと たださらさらと水の流るる」という句を思い出し、残暑厳しい中にも一服の清涼剤を頂いたような気持ちにさせてもらった取材でした。

News & 活動情報

臨時教区会開催

【教区会】去る10月29日、本願寺備後教堂にて臨時教区会が招集された。このたびは平成21年度教区一般会計他5つの特別会計の決算（別添）が財務議案として上程され承認された。また法規議案として「教区賦課基準等調整委員会委員の任期の調整に関する区令」が上程され同じく承認された。

教区賦課基準等調整委員会委員の任期の調整に関する区令

この区令施行の際現に備後教区賦課基準等調整委員会委員の職にある者の任期は、教区賦課基準等調整委員会設置規定（平成14年区令第1号）第2条第3項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとし、当該期間内に新たに委員に就任した者の任期についてもまた同様とする。

附則

この区令は、教区会の議決を得た日（平成22年10月29日）から施行する。

仏壮連盟綱領に学ぶ

【仏壮】教区仏教連盟（石井輝美理事長）の夏期研修会が8月29日、三谿組の明覚寺（不二川公勝住職）で開かれ、約100人が参加した。講師は仏壮連盟活動推進講師の藤井邦麿・大分教区正善寺住職。藤井講師は「私は仏壮！？」と題して講義。基本的な作法などお話いただき、仏教壮年連盟綱領に基づき、仏壮活動の必要性を語っていただいた。

94名が集い研鑽

【布教団】8月23日（月）、24日（火）の二日間にわたり、布教団連合主催の「第4連区布教使研修

教区月報（敬称略）

8月
6日　全国真宗青年のつどい（神戸7日まで）
11日　教堂常例法座（法宗正勝）
12日　休館（16日まで）
17日　地方都市法要実行委員会（広島）
18日　門推花の里実習
19日　宗法改正に関する学習会
23日　第4連区布教使研修会（24日まで）
24日　お待ち受け布教大会（三谿組照善坊25日まで）
29日　仏壮夏期研修会（三谿組明覚寺）
30日　基推同朋部会

9月
1日　キッズサンガ推進委員会
2日　基推常任委員会
8日　勤式練習会
9日　連研のための研究会
11日　教堂常例法座（佐々木至成）
12日　グリーフケア
17日　千鳥ヶ淵戦没者追悼法要（18日まで）
25日　連区門推研修協議会（広島26日まで）
26日　備中里組お待ち受け法要（備中里組浄心寺）
27日　同朋講座
28日　連区仏壮研修会実行委員会（福山市アルセ）

会」が、福山市沖野上町「アルセ」を会場に、備後教区布教団の担当で開催された。初日は、中川清昭・中央基幹運動相談員より「問題提起」がなされ、分散会、全体会が行われた。二日目は、林智康・本願寺派勧学を迎えて、「現生正定聚と現世利益和讃」について講義があった。

いよいよ「親鸞聖人750回大遠忌法要」を翌年に控え、参加者94名それぞれが「自信教人信」のお心持を確かめ合う機縁となった。

第2回お待ち受け布教大会

【布教団】8月24日（火）、25日（水）の2日間にわたり、備後教区布教団主催の「第2回親鸞聖人750回大遠忌法要お待ち受け布教大会」が、三谿組照善坊（福間真也住職）を会場に開催された。本山での「親鸞聖人750回大遠忌法要」を翌年に控え、各組を中心に「お待ち受け法要」が活況を呈する中、布教団主催としての布教大会は、昨年に引き続き、2回目の開催となった。

教区内の布教団員が8名出講し、100名を超す参詣者と共に親鸞聖人のご遺徳を偲びつつ、阿弥陀様の温もりに出遇えたよろこびをわかちあえたご法縁であった。

三者懇でパネルディスカッション

【同朋部会】去る10月12日、本願寺備後教堂において、同朋三者懇対談・パネルディスカッションが開かれた。

三者懇については、昨年度から同朋部会にて特に取り上げ、新たな試みを進めていた。前回の連続講座を経て、このたびも三者懇を通して、様々な疑問、難問を語り合ったようだ。参加者は21名。

全国野球大会4位

【備龍会】「第34回寺族青年軟式野球大会」が9月28日、29日の日程で、京都府立山城総合運動公園を会場に29チームが参加し、開催された。

備後教区からは2チームが参加し、両チームとも手に汗握る白熱した試合を展開した。ここ数年初戦敗退が続いていたが、今年はAチームが、シード教区の熊本教区を1点差の僅差で破るなど快進撃を続け、4位と健闘した。Bチームは惜しくも初戦で敗退したが、最後まで諦めないチーム一丸のプレーで、会場を魅了した。優勝は安芸教区だった。結果は次の通り。

備龍会Aチーム＝1回戦　13―2　KOBENAMO（兵庫）、2回戦　8―4BAN（兵庫）、準々決勝　1―0熊本アミタ（熊本）、準決勝　5―12赤色赤光（大分）、三位決定戦　2―11阿修羅（大阪）

備龍会Bチーム＝一回戦　2―7BAN（兵庫）

10月

28日　全国寺青野球大会（京都29日まで）
30日　基推門信徒部会
2日　沼隈南組お待ち受け法要（沼隈南組光照寺）
2日　安穏灯火リレー
3日　比婆組お待ち受け法要（比婆組西楽寺）
3日　鴨川組お待ち受け法要（神辺文化会館）
5日　連区基幹運動協議会（6日まで）
6日　世羅組お待ち受け帰敬式（世羅組照光寺）
8日　仏婦寺婦基幹運動研修会
11日　教堂常例法座（部　晃尊）
19日　後期勤式研修会
20日　連区青年布教使研修会（山口21日まで）
23日　連区仏壮会員研修会（アルセ24日まで）
25日　同朋三者懇勤式練習会
25日　ビハーラ活動団体代表者会
26日　仏婦役員会
27日　基推同朋部会
28日　環境問題学習会
28日　基推常任委員会
28日　神石組お待ち受け法要（神石組正光寺）
29日
30日

インフォメーション

備後教堂親鸞聖人750回大遠忌法要

標記の法要を左記の通り勤修いたします。お誘い合わせのうえご参詣いただきますようご案内申しあげます。

11月29日（月）
朝席　宗祖讃仰作法
講師　藤井義英副団長
（比婆組西教寺）
昼席　宗祖讃仰作法―音楽法要
講師　那須英信副団長
（沼隈南組善正寺）
・住職在職30年・50年の功労者表彰を　併せて行います。

11月30日（火）
朝席　宗祖讃仰作法
講師　山下義円副団長
（奥組浄福寺）
昼席　宗祖讃仰作法―音楽法要
講師　山下義円副団長
・お昼頃、ボーモリーズによる歌の披露があります。

教堂常例法座出講者

（敬称略）

11月　三條義見
（鴨川北組円福寺）
12月　川上順之
（神石組法泉寺）
1月　千葉隆誓
（芦田組光明寺）

教務所お休みのお知らせ

宗務終了日
12月28日（火）午後より
宗務開始日
1月8日（土）より

●在家免物の取り次�ぎについて

教務所にて在家免物の取り次ぎを行っています。本山からお寺、ご門徒宅へ直接届くよう手配をさせていただきます。教務所（藤井）へお問い合わせください。

今後の予定

11月
6日　ブロック真宗青年のつどい
（山口7日まで）
9日　ビハーラ実践学習（寿園）
11日　教堂常例法座
14日　御調東組お待ち受け法要
（福善寺）
18日　教区門信徒のつどい
26日　勤式練習会
29日　教堂７５０回大遠忌法要
（30日まで）

12月
7日　仏婦会員研修会
11日　教堂常例法座
28日　午後より宗務納め

1月
8日　宗務始め
11日　教堂常例法座
18日　各専門委員会合同会議
21日　特別布教大会
（世羅組照明寺）
28日　ビハーラ研修協議会

人　事（退職）

およそ20年の間、備後教区の宗務に、携わってくださった、原英順（世羅組善仁寺住職）さんが9月30日付で退職されました。本当にお世話になりました。

退職あいさつ

9月30日付をもって退職いたしました。在職中は多大なるお力添えを賜りありがとうございました。紙面をお借りして御礼のご挨拶を申しあげます。

新職員（派遣）

あいさつ

11月より教務所でお世話になることになりました平佐由梨（ひらさゆり）と申します。

何分不慣れでご迷惑をおかけすることもあろうかと思いますが、精一杯お役に立てるよう努めてまいりたいと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。

得度許可　おめでとうございます

［敬称略］

深津組　崇興寺　枝廣　真教（真教）
芦田組　妙泉寺　矢追　貴祥（貴祥）
比婆組　正専寺　小滝　世雄（世雄）
（平成22年7月30日付）

教師授与　おめでとうございます

［敬称略］

鴨川組　金蔵坊　岡田　淳英（淳英）
御調西組　憲徳寺　松井　宏之（宏徳）
（平成22年4月20日付）
三次組　専法寺　梵　大英（大英）
（平成22年6月29日付）

敬弔

お悔やみ申し上げます

［敬称略］

鴨川北組　宝泉寺
前住職　佐藤　一秀（8月27日寂）
三次組　真楽寺
前住職　迫田　龍誠（9月8日寂）
鴨川組　正覚寺
前々住職　竹政　信行（9月16日寂）
神石組　法泉寺
前坊守　川上　淳枝（9月17日寂）
備中里組　浄心寺
衆徒　吉岡　淳雄（9月22日寂）
深津組　信行寺
住職　清水坊　薫（10月1日寂）
御調東組　照源寺
衆徒　毛利　正寄（10月13日寂）

香典返礼　ありがとうございます

神石組　正光寺様
より香典返礼を頂きました。
鴨川北組　宝泉寺様
より香典返礼を頂きました。

寄贈　ありがとうございます

御調東組　照源寺様
より備後教堂へ「封かん機」をご寄贈いただきました。

編集後記

今年の夏は暑かった。今思い返しただけでも汗ばむ気がする。猛暑日といわれる日が連日続き、体調を崩された方も多かったのではないだろうか。梅雨時にはこれでもか！というくらいにたっぷりと降った雨も、梅雨が明けるとほとんど降らなかった。農作物によっても、出来の良し悪しが大きく分かれたと聞いた▼私は本来雨があまり好きではない。朝起きて雨が降っていると、昔から気持ちが乗ってこない気がする。しかし雨がもたらす水は、言うまでもなく地球にとっても、我々が生きる上でも欠かせない資源だ▼あるお寺のご法座にお参りした時、伝道掲示板に書いてあった言葉「雨の日は、私の都合で悪天候」その日は、偶然かどうかは定かでないが、雨が降っていた▼教区報を通して、文書伝道の役割を果たせるような記事を書いていきたい。（Z・Y）

親鸞聖人750回大遠忌記念事業
「安穏灯火リレー」

◀岡山龍谷高校生徒による献花、献灯
▼常灯明を分灯

10月2日（土）、親鸞聖人750回大遠忌記念事業「安穏灯火リレー」の分灯式が備後教堂で行われた。

「安穏灯火リレー」とは、来年4月から勤修される親鸞聖人750回大遠忌法要への思いを深めるため、長い間消えることなく護られてきた本願寺の常灯明を全国に分灯しながら巡回していく企画である。

常灯明を乗せた安穏号＝表紙写真が沖縄から九州を経たのち、山口、安芸、山陰教区を巡回し、備後教堂へと到着した。

式典では、常灯明を迎えるため、岡山龍谷高校の生徒による献花・献灯が行われ、尊前に恭しく灯火が運ばれた。教務所長が中尊、祖師前、御代前へ点燭し、電気が消灯された本堂の暗がりの中でご本尊が照らし出された。長きにわたって本願寺の内陣を照らし続けてきた灯火が備後の地に届くと同時に、親鸞聖人のみ教えがこの灯火のように絶えず続いていきますようにとの願いも届けられることとなった。

式典後、ボーモリーズに讃歌を披露していただいた。初めて聞く坊守さんたちの歌声に本願寺の職員も「感動」の一言。参加者の皆様も一緒にコーラスに参加し、ともに仏徳讃嘆のひとときを過ごした。

記念法話は福間義朝師（世羅組教専寺住職）に「雑行を棄てて本願に帰す」の講題でお話しいただき、それぞれに宗祖へ思いを寄せ、大遠忌法要への思いを深めた。

最後に、もう一度本堂内を消灯し、参拝者全員に配っておいたキャンドルに火をつけた。全員のところへ灯火をつないでいき、最後の一人に灯火が届いたところで恩徳讃を唱和。キャンドルの火のみに照らされた幻想的な雰囲気の中、口々にナンマンダブツ、ナンマンダブツとお念仏の声が聞こえてきた。

常灯明が次の四州教区に向かって送り出され、分灯式の全日程が終了した。

沼隈南組、鴨川組、比婆組のお待ち受け法要並びに世羅組の帰敬式ではこの常灯明をお迎えされ、それぞれの地域で大遠忌への思いを深められた。

今後ともさまざまな記念事業を通して、50年に一度の節目となる大遠忌を皆で大切にお迎えできるよう、より多くの人々に呼びかけていきたい。

▲ボーモリーズによるコーラス
◀左写真は常灯明をお迎えしての世羅組法要

●発行所　備後教区教務所 〒720-0052 福山市東町2-4-5　●発行人　教務所長　宮川宏生　●編集　教区報専門委員会